

# 幼稚園教諭養成課程における領域「人間関係」に関する 授業内容についての検討

－ 幼児教育科の短期大学生を対象とした調査結果から －

太 田 裕 子 幼児教育科

(2022年10月3日受理)

## 〔 要 約 〕

幼稚園教諭養成課程の短期大学生を対象とするアンケート調査結果より、領域「人間関係」に関する授業内容について検討した。

1年生、2年生対象の授業それぞれにおいて、領域、幼稚園教育において育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿についての理解を促す学修機会を設定することが有意義であると考えられた。また、両学年が「知識が不足している」、「実践で取り上げるのが難しそうだ」とした、「高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。」等の内容については、授業でより重点的に取り上げることの必要性が改めて示された。

## I. 問題と目的

平成27年12月の中央教育審議会答申を受け、平成28年11月に教育職員免許法が、平成29年11月に教育職員免許法施行規則が改正された。それにより、教職課程の「教科に関する科目」、「教職に関する科目」、「教科又は教職に関する科目」の3区分は廃止され、教科の専門的内容と指導法を一体的に学ぶことを可能とする「教科及び教職に関する科目」に大括り化された。幼稚園教諭養成課程では、従来の「教職に関する科目」に含まれた「教育課程及び指導法に関する科目」と、「教科に関する科目」で構成された教育課程が見直され「領域及び保育内容の指導法に関する科目」が創設された<sup>1), 2)</sup>。「領域及び保育内容の指導法に関する科目」は、「イ 領域に関する専門的事項」と「ロ 保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む)」で構成され、「領域に関する専門的事項」とは「領域について、領域それぞれの学問的な背景や基盤となる考え方を学ぶことを基本とする」、「保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む)」では「5領域のねらいや内容を踏まえた上で、5領域毎の保育内容の指導法で実践すべき力を身に付けることを目指す」とされている<sup>3)</sup>。

新課程における授業内容については、例えば中川ら<sup>4)</sup>が、一般社団法人保育教諭養成課程研究会により「領域に関する専門的事項」のモデルカリキュラム及び「保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む)」が作成された<sup>3)</sup>ことを踏まえた上で「領域

に関する専門的事項」で取り扱うべき具体的な内容については、共通的な認識が形成されていないのが現状と言えよう。」と述べているように、様々な大学、短期大学等において、含むべき内容や手法について試行錯誤されているものと思われる。

本学においても、令和4年度から新課程による授業を開始することとなり、当該年度入学生に対して、領域「人間関係」に関しては、「領域に関する専門的事項」として「幼児と人間関係」を新設して1年次後期に実施している。また、「保育内容の指導法」として「保育内容 (人間関係) の指導法」を令和5年度となる2年次前期に実施する予定である。新課程による授業の開始以前は、従来の「教育課程及び指導法に関する科目」に位置付けられていた「保育内容 (人間関係)」が、令和3年度入学生である現在の2年生までは2年次前期に実施されていたことから、令和4年度より、領域「人間関係」について学び始める時期が、2年次前期から1年次後期に早まることとなった。新課程による授業が開始されること、また、領域「人間関係」においては新課程による授業開始以前より早期に学修が開始されることから、学修開始時の学生の現況を把握し、その現況を反映させた授業を考慮していくことが学生の理解向上に資するものと思われる。よって、学修前提値となる学生の現況を把握し、今後の授業展開に反映させうる知見を得ることを目的とする。

授業内容に関して、近藤<sup>5)</sup>は、4年制大学の幼稚

園教諭養成課程の4年生を対象として9月に調査を行い、教職課程での学修の自己評価から学生の実態を捉えている。教員免許法施行規則に定める科目区分等に基づき、「科目」と「各科目に含める必要事項」によって構成された全項目を通して、総じて「理解している」と評価している傾向が認められたと同時に、技術や表現に関連した内容、幼児教育の原理に関連する内容については理解度に課題があると指摘している。また、項目「5領域の考え方について理解している。」において44名中14名が、項目「保育内容「人間関係」のねらいと内容、指導援助方法について理解している。」において42名中16名が「不安が残る」としていた。中川ら<sup>4)</sup>は、「領域に関する専門的事項」において取り扱うべき内容の射程について検討し、学生にとっては、何について学んでいるのかを明確に意識できれば、学修成果の向上に繋がるであろうことから、授業の最初の部分で、幼稚園教育要領の当該領域について取り上げ、科目の枠組みに関する学生の理解を促したり、教育課程の早い時期に「保育内容総論」の科目を位置付け、領域に関する学生の理解を深めたりする方策の大切さを指摘している。幼児教育の原理や領域についての考え方、科目の枠組みに関する知識を持つことの重要性が指摘されていることから、本研究においては、「領域の考え方」、領域のねらい及び内容に関連のある「幼稚園教育において育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についての学生の自己評価を中心とする現況を把握することとする。

また、太田<sup>6)</sup>は、旧課程で学修した短期大学生を対象とする「保育内容（人間関係）」の授業内容について検討し、学生が知識を持つことで、その知識に関連した内容を実践で取り組みやすいものとして捉える傾向があること、領域「人間関係」の内容の中の「高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみを持つ。」、「自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく。」、「友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする。」、「自分で考え、行動する。」という内容については、学生が「知識が不足している」、「保育実践において取り上げるのが難しそうだ」と考えていることを把握した。領域の学修においては、その内容として含まれるものも学修の主たる対象となることから、上記の内容についても現況を把握することとする。また、複数年度の学生を対象とした調査結果を分析することで学生の傾向がより明確になることが期待されることから、令和4年度の1年生と2年生を対象として調査を実施することで、

現況を把握していくこととする。

## II. 方法

### 1. 対象者

羽陽学園短期大学1年生 79名

羽陽学園短期大学2年生 76名

本調査の対象者となった羽陽学園短期大学1年生は、実習を経験していない。一方、2年生は、幼稚園における観察実習（1週間）を実施済みである。

### 2. 調査計画

1年生を対象としたアンケート調査を、「幼児と人間関係」の第1回目の授業日に、2年生を対象としたアンケート調査を、「保育内容（人間関係）」の第1回目の授業日に実施した。アンケートは、保育に関する基本的事項についてのアンケートと、領域「人間関係」についてのアンケートとの2種類からなる。前者を実施後、授業概要についての説明を実施し、その後後者を実施した。各アンケート調査内容は、以下の通りである。前者の所要時間は約10分、後者の所要時間は約15分であった。対象者に対して、アンケート結果は公表される場合があることを明示し、その旨についての了承に基づいた上で回答を得た。

### 3. 調査実施期日

1年生対象 令和4年9月14日

2年生対象 令和4年4月7日

### 4. アンケート調査の内容

アンケート調査の内容は、以下の通りである。「領域「人間関係」の内容」に付記されている「内容名」、質問文に付記されている「質問項目名」は、対象者に配布されたアンケート用紙には記載されていない。

#### 4-1. 保育に関する基本的事項についてのアンケート

##### 1. 保育における「領域」についてお聞きします。

＜質問項目名：領域の理解についての質問＞

##### 1-1. あなたの「領域」についての理解は、どのようなものですか。当てはまる記号をひとつ選び、○をつけて下さい。

- ア 名称は知っていて、その内容について他の人に説明できる。
- イ 名称は知っていて、その内容についてイメージできるが他の人に説明することはできない。
- ウ 名称は知っているが、その内容についてイメージすることも他の人に説明することもできない。

1-2. 「領域」の名称で知っているものがあれば、いくつでも書いて下さい。

<質問項目名：領域の名称についての質問>

1-3. 保育における「領域」は、学校教育における「教科」と比較してどのようなものだと思いますか。当てはまる記号をひとつ選び、○をつけて下さい。

<質問項目名：領域の特性についての質問>

ア 保育における「領域」は、学校教育における「教科」と同じものである。

イ 保育における「領域」は、学校教育における「教科」と異なるものである。

ウ 保育における「領域」は、学校教育における「教科」と同じ面も異なる面もある。

エ 保育における「領域」が学校教育における「教科」と同じものか異なるものか、分からない。

1-4. 1-3. でア、ウを選んだ方にお聞きします。どのような点が同じだと思いますか。自由に書いて下さい。

1-5. 1-3. でイ、ウを選んだ方にお聞きします。どのような点が異なると思いますか。自由に書いて下さい。

2. 「幼稚園教育（保育所保育、幼保連携型認定こども園の教育及び保育）において育みたい資質・能力」についての、あなたの理解はどのようなものですか。当てはまる記号をひとつ選び、○をつけて下さい。

<質問項目名：資質・能力の理解についての質問>

ア 名称は知っていて、その内容について他の人に説明できる。

イ 名称は知っていて、その内容についてイメージできるが他の人に説明することはできない。

ウ 名称は知っているが、その内容についてイメージすることも他の人に説明することもできない。

3. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、あなたの理解はどのようなものですか。当てはまる記号をひとつ選び、○をつけて下さい。

<質問項目名：育ってほしい姿の理解についての質問>

ア 名称は知っていて、その内容について他の人に説明できる。

イ 名称は知っていて、その内容についてイメージできるが他の人に説明することはできない。

ウ 名称は知っているが、その内容についてイメージすることも他の人に説明することもできない。

#### 4-2. 領域「人間関係」についてのアンケート

##### 領域「人間関係」の内容：幼稚園教育要領の場合

①先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。

<内容名：先生や友達と過ごす喜び>

②自分で考え、行動する。

<内容名：自分で考え行動すること>

③自分でできることは自分でする。

<内容名：できることは自分ですること>

④いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。

<内容名：物事を完遂しようとする気持ち>

⑤友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。

<内容名：友達との感情の共感>

⑥自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気づく。

<内容名：思いの伝達、気づき>

⑦友達よさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。

<内容名：友達と共に活動する楽しさ>

⑧友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。

<内容名：共通目的下での工夫、協力>

⑨よいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。

<内容名：善悪を考えての行動>

⑩友達との関わりを深め、思いやりをもつ。

<内容名：友達への思いやり>

⑪友達と楽しく生活する中でまじりの大切さに気づき、守ろうとする。

<内容名：決まりを守る気持ち>

⑫共同の遊具や用具を大切に、皆で使う。

<内容名：物を大切に共同で使うこと>

⑬高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

<内容名：高齢者や地域の人々への親しみ>

1. 上の内容①～⑬で、あなたが「このことについて自分は知っている、知識が多くある。」と思うものはどれですか。特にそう思う3つを選び、その番号を書いてください。

<質問項目名：知識充足を感じる内容についての質問>

2. その3つを選んだ理由は何ですか。当てはまるものの記号にいくつでも○をつけてください。

TABLE 1 「領域の理解についての質問」の選択肢における学年別選択者数

学年		選択肢			合計
		説明可	イメージのみ可	イメージと説明両方不可	
1年生	選択者数	5	64	10	79
	%	6.3	81	12.7	100
	期待度数	9.2	64.7	5.1	79
	調整済み残差	-2.1*	-0.3	3.2*	
2年生	選択者数	13	63	0	76
	%	17.1	82.9	0	100
	期待度数	8.8	62.3	4.9	76
	調整済み残差	2.1*	0.3	-3.2*	
合計	人数	18	127	10	155
	%	11.6	81.9	6.5	100

\* $p < .05$ 

ア ニュース等で目にしたり耳にしたりしたことがある。

イ 実習やボランティア活動等の、子どもと関わる場面で知ることができた。

ウ 短大の授業で、学ぶことができた。

エ なんとなく選んだ。

オ その他 ( )

<質問項目名：知識入手先についての質問>

3. 上の内容①～③で、あなたが「このことについて自分は知らない、知識が足りない。」と思うものはどれですか。特にそう思う3つを選び、その番号を書いてください。

<質問項目名：知識不足を感じる内容についての質問>

4. 上の内容①～③は、いずれも保育の中で取り上げるべき内容ですが、自分が保育者になったと想定した場面で、あなたが「このことについて保育実践の中で取り上げていきたい。」と思うものはどれですか。特にそう思う3つを選び、その番号を書いてください。

<質問項目名：取り上げたい内容についての質問>

5. 上の内容①～③で、自分が保育者になったと想定した場面で、あなたが「このことについて保育実践の中で取り上げやすそうだ。」と思うものはどれですか。特にそう思う3つを選び、その番号を書いてください。

<質問項目名：取り上げやすい内容についての質問>

6. 上の内容①～③で、自分が保育者になったと想定した場面で、あなたが「このことについて保育実践の中で取り上げるのが難しそうだ。」と思うものはどれですか。特にそう思う3つを選び、その番号を書いてください。

<質問項目名：取り上げるのが難しい内容についての質問>

### Ⅲ. 結果と考察

本調査により得られた結果は以下の通りである。結果の分析の際には $\chi^2$ 検定、 $t$ 検定を用い、5%水準を基準として有意差があるものとした。

#### 1. 「領域の理解についての質問」について

「領域の理解についての質問」の選択肢における学年別選択者数をTABLE 1に示す。

TABLE 1において $\chi^2$ 検定の結果有意差が見られた( $\chi^2(2)=13.51, p < .01$ )。残差分析により、選択肢「領域の内容について、他の人に説明できる」において2年生の選択者が多く、「領域の内容についてイメージも説明もできない」において1年生の選択者が多いことが示された。1年生では「イメージも説明もできない」の選択者が10名いる一方で、2年生では領域の内容について何らかのイメージをすることは全員ができていたことが分かる。

#### 2. 「領域の名称についての質問」について

名称を正しく書いたものを正答とした。学年別の平均正答数をTABLE 2に示す。

TABLE 2 「領域の名称についての質問」における学年別平均正答数

学年	平均正答数	標準偏差
1年生	3.81	1.875
2年生	4.57	.596

TABLE 2において、*t* 検定の結果有意差が見られた ( $t(153)=3.408, p < .01$ )。2年生の方が、正しく書いた領域の名称数が多いことが示された。

3. 「領域の特性についての質問」について

選択肢「保育における「領域」は、学校教育における「教科」と異なるものである。」を選択し、かつ、自由記述において、学校教育における「教科」と比較して、「各領域に示すねらいは、幼稚園における生活の全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら次第に達成に向かうものであること、内容は、幼児が環境に関わって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものであること」<sup>7)</sup>の趣旨に沿った説明を書いた者を正答者とした。学年別の正答者数をTABLE 3に示す。

TABLE 3 「領域の特性についての質問」における学年別正答者数

学年	正答者数 (%)
1年生	5 (6.3)
2年生	19 (25.0)

TABLE 3において  $\chi^2$  検定の結果有意差が見られ ( $\chi^2(1)=10.32, p < .01$ )、2年生の方が正答者数が多いことが示されたが、2年生においても正答者数は19名に留まっている。

4. 「資質・能力の理解についての質問」について

「資質・能力の理解についての質問」の選択肢における学年別選択者数をTABLE 4に示す。

TABLE 4において  $\chi^2$  検定の結果有意差が見られた ( $\chi^2(2)=18.21, p < .01$ )。残差分析により、幼稚園教育において育みたい資質・能力についての選択肢「幼稚園教育において育みたい資質・能力について他の人に説明できる」において2年生の選択者が多く、「幼稚園教育において育みたい資質・能力についてイメージも説明もできない」において1年生の選択者が多いことが示された。

5. 「育ってほしい姿の理解についての質問」について

「育ってほしい姿の理解についての質問」の選択肢における学年別選択者数をTABLE 5に示す。

TABLE 5において  $\chi^2$  検定の結果有意差が見られた ( $\chi^2(2)=22.88, p < .01$ )。残差分析により、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿についての選択肢「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の内容について他の人に説明できる」において1年生の選択者はおらず、2年生の選択者が多いことが示された。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の内容についてイメージも説明もできない」において1年生の選択者が多いことが示された。

6. 「知識充足を感じる内容についての質問」について

自分が知っている、知識を多く持っているものとして選択された内容の学年別選択者数比率を、FIGURE 1に示す。

FIGURE 1より、自分が知っている、知識を多く

TABLE 4 「資質・能力の理解についての質問」の選択肢における学年別選択者数

学年		選択肢			合計
		説明可	イメージのみ可	イメージと説明両方不可	
1年生	選択者数	1	57	21	79
	%	1.3	72.2	26.6	100
	期待度数	5.1	61.2	12.7	79
	調整済み残差	-2.7*	-1.6	3.6*	
2年生	選択者数	9	63	4	76
	%	11.8	82.9	5.3	100
	期待度数	4.9	58.8	12.3	76
	調整済み残差	2.7*	1.6	-3.6*	
合計	人数	10	120	25	155
	%	6.5	77.4	16.1	100

\* $p < .05$

TABLE 5 「育ってほしい姿の理解についての質問」の選択肢における学年別選択者数

学年		選択肢			合計
		説明可	イメージのみ可	イメージと説明両方不可	
1年生	選択者数	0	53	26	79
	%	0	67.1	32.9	100
	期待度数	5.1	57.6	16.3	79
	調整済み残差	-3.3*	-1.7	3.8*	
2年生	選択者数	10	60	6	76
	%	13.2	78.9	7.9	100
	期待度数	4.9	55.4	15.7	76
	調整済み残差	3.3*	1.7	-3.8*	
合計	人数	10	113	32	155
	%	6.5	72.9	20.6	100

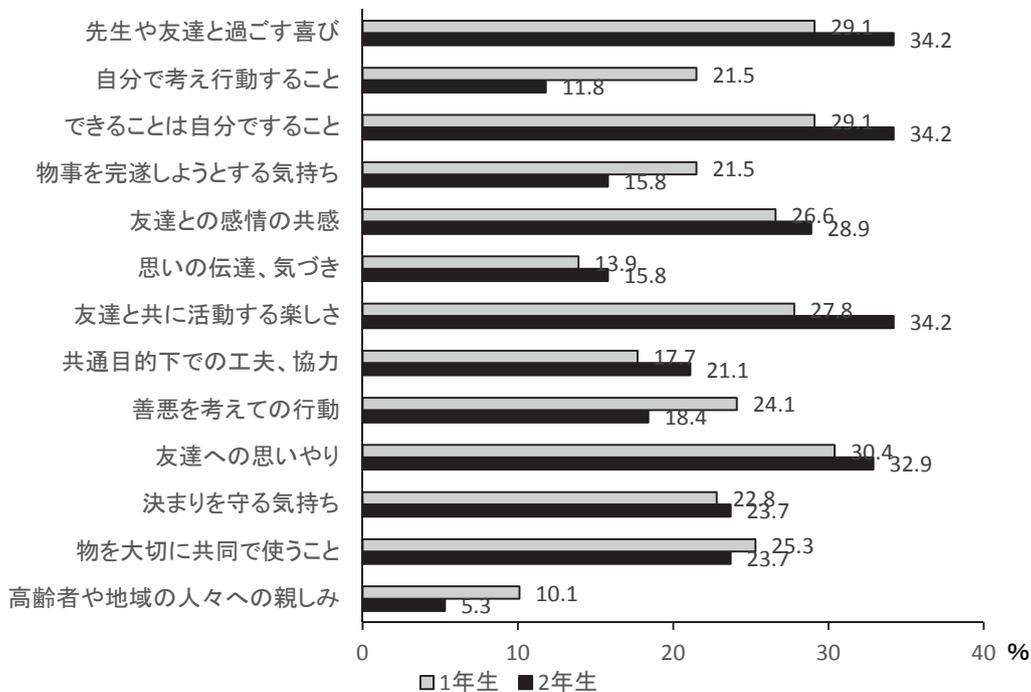
\* $p < .05$ 

FIGURE 1 「知識充足を感じる内容についての質問」における各選択肢の学年別選択者数比率

持っている内容として、1年生における「友達への思いやり」、「先生や友達と過ごす喜び」、「できることは自分ですること」の選択者数比率が30%前後となっており、それらが13の内容の中でより多くの学生から選択されたことが分かる。2年生においては、「先生や友達と過ごす喜び」、「できることは自分ですること」、「友達と共に活動する楽しさ」の選択者数比率が高くなっており、選択者数比率が高い内容が両学年で類似している傾向が見られる。

#### 7. 「知識入手先についての質問」について

知識の入手先についての各選択肢の学年別選択者数比率を、FIGURE 2に示す。

FIGURE 2より、知識入手先として、1年生においては「短大の授業」の選択者数比率が最も高く、2年生においては「実習やボランティア活動等の、子どもと関わる場面で知ることができた」の選択者数比率が最も高いことが分かる。1年生は幼稚園での実習が未経験であることから、回答傾向が異なったものと思われる。また、1年生では、最も高い選択者数比率

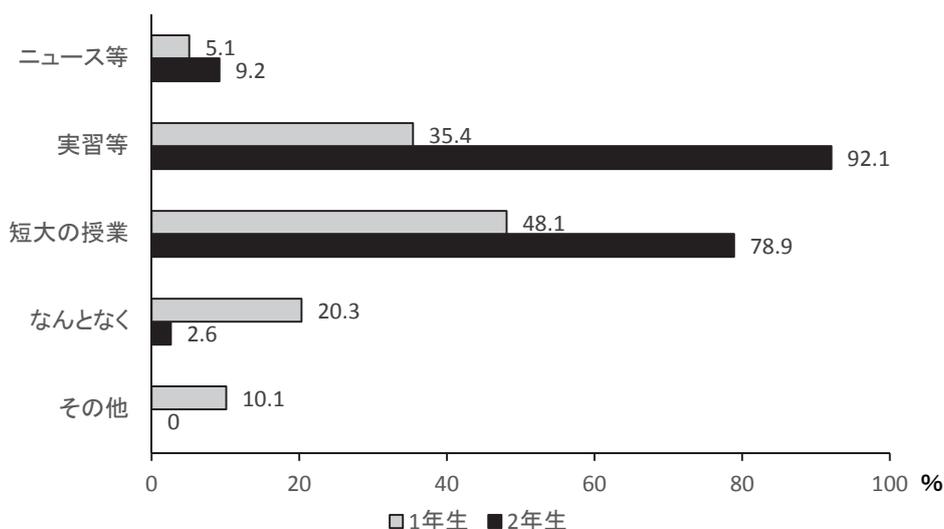


FIGURE 2 「知識入手先についての質問」における各選択肢の選択者数比率

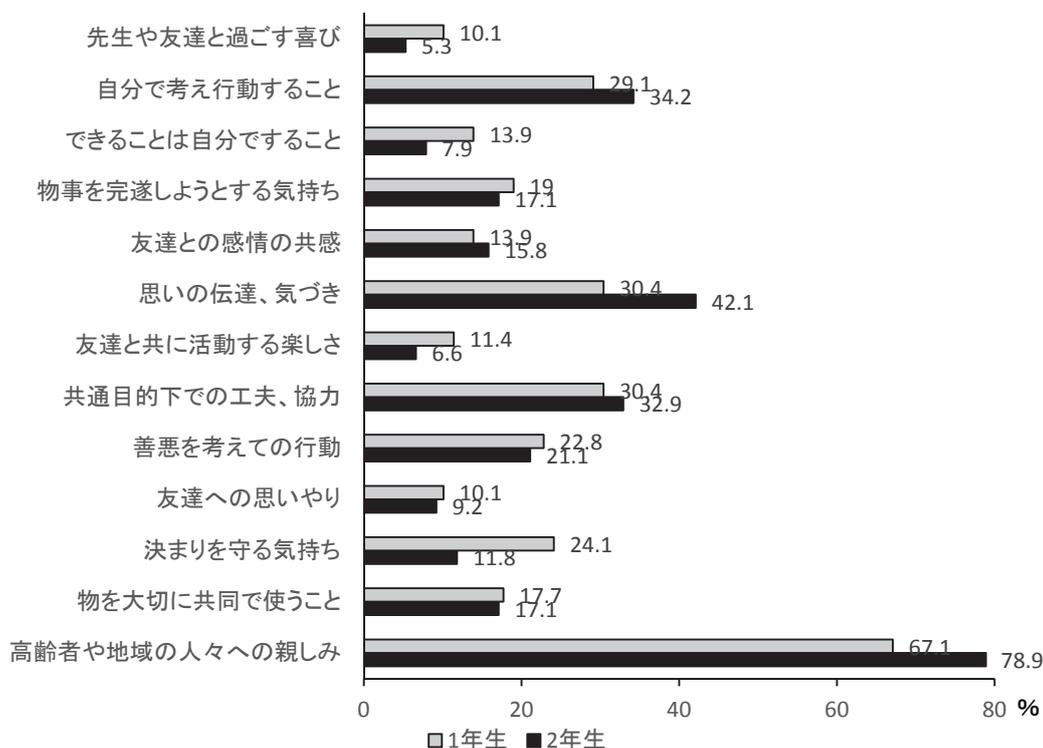


FIGURE 3 「知識不足を感じる内容についての質問」における各選択肢の学年別選択者数比率

が50%未満であり、「なんとなく」、「その他」の選択者数比率が約20%、10%を示している一方で、2年生においては、最も高い選択者数比率と2番目に高い比率がそれぞれ92.1%、78.9%と高比率を示しており、その点でも各学年の回答傾向が異なっている。1年生の「その他」の選択者によりその内容として記述されたものは、すべて「自分自身のこれまでの経験」であった。両学年の類似した回答傾向として、「ニュース等

で目にしたり耳にしたりしたことがある」の選択者数比率が他の比率と比較して非常に低いことが認められた。

8. 「知識不足を感じる内容についての質問」について自分は知らない、知識が足りないものとして選択された内容の学年別選択者数比率を、FIGURE 3に示す。

FIGURE 3より、自分は知らない、知識が足りない

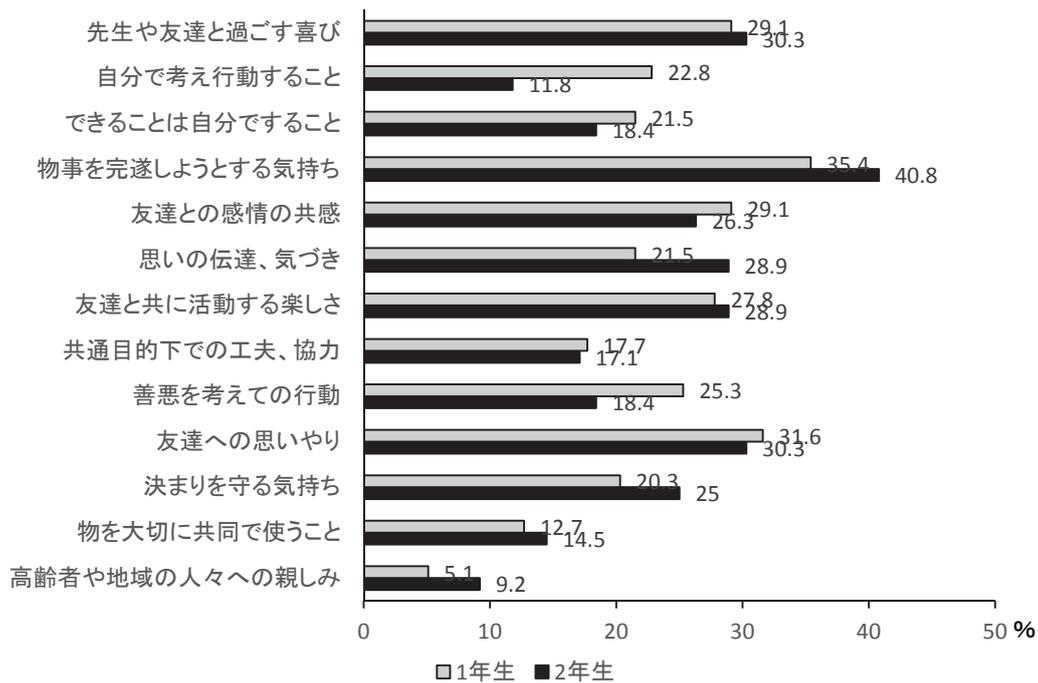


FIGURE 4 「取り上げたい内容についての質問」における各選択肢の学年別選択者数比率

内容として、1年生、2年生における「高齢者や地域への人々への親しみ」の選択者比率が67.1%、78.9%であり、両学年において13の内容の中で多くの学生から選択されたことが分かる。高齢者や地域の人々と子どもの関わりについては、学生が実習や自身の生活を通して体験することが難しい内容であることから、2年生においても高比率となったことが考えられる。1年生においては「思いの伝達、気づき」、「共通目的下での工夫、協力」の選択者比率が30%以上となっており、2年生においては「思いの伝達、気づき」、「自分で考え行動すること」が42.1%、34.2%を示し、それらがより多くの学生から選択されたことが分かる。それらは、実習等の短期間で、子どもが身につけたか否かを実際に活動している子どもの姿から読み取ることが比較的難しい内容であり、子どもに身につけさせるための指導、援助にもより多くの時間や経験、保育者としての技量が求められる内容であることから、より高い選択率につながった可能性がある。また、高い選択者数比率を示した選択肢が両学年で類似している傾向も見られる。

#### 9. 「取り上げたい内容についての質問」について

保育実践の中で取り上げていきたいと思うものものとして選択された内容の学年別選択者数比率を、FIGURE 4に示す。

FIGURE 4より、自分が保育実践の中で取り上げて

いきたいと思っている内容として、1年生、2年生における「物事を完遂しようとする気持ち」の選択者比率が35.4%、40.8%であり、両学年において13の内容の中でより多くの学生から選択されたことが分かる。

「友達への思いやり」、「先生や友達と過ごす喜び」の選択者比率が両学年において約30%を示し、回答傾向が類似している。

#### 10. 「取り上げやすい内容についての質問」について

保育実践の中で取り上げやすそうだと思うものものとして選択された内容の学年別選択者数比率を、FIGURE 5に示す。

FIGURE 5より、保育実践の中で取り上げやすそうだと思う内容として、1年生においては「先生や友達と過ごす喜び」の選択者比率が44.3%で最も高い。「できることは自分ですること」、「友達と共に活動する楽しさ」が何れも30%以上の選択者数比率となっており、それらが13の内容の中でより多くの学生から選択されたことが分かる。2年生においては、「先生や友達と過ごす喜び」の選択者数比率が44.7%で最も高く、「できることは自分ですること」、「友達との感情の共感」の選択者数比率が43.4%、28.9%と他の選択者数比率より高くなっている。また、それらの内容のうち、1年生においては、「先生や友達と過ごす喜び」、「できることは自分ですること」は、FIGURE 1において自分が知っている、知識を多く持っている内容と

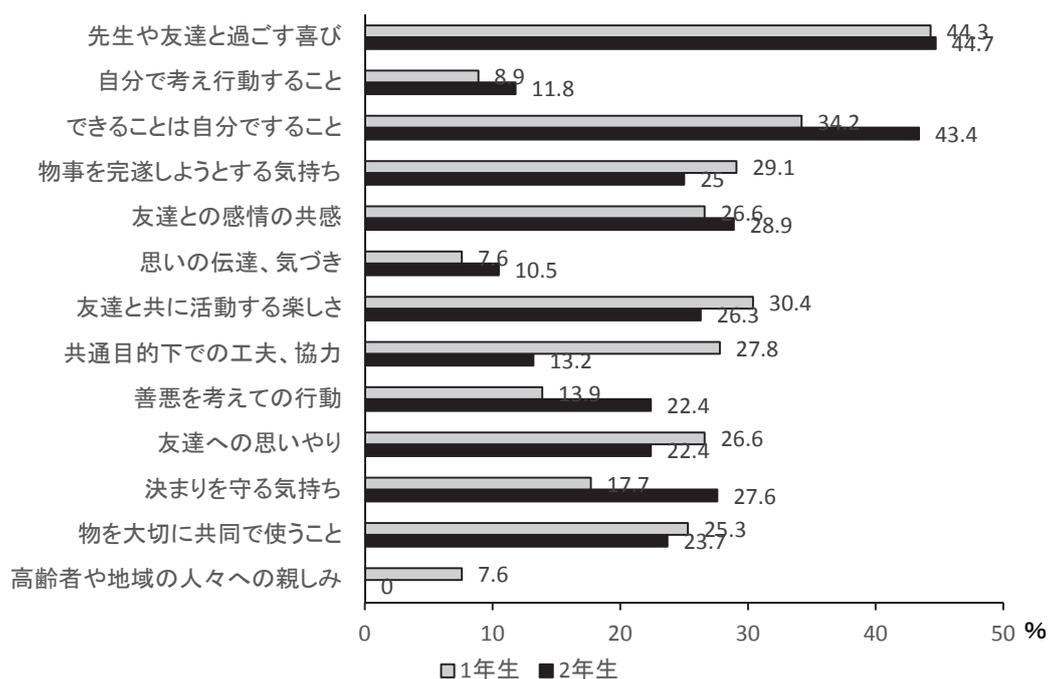


FIGURE 5 「取り上げやすい内容についての質問」における各選択肢の学年別選択者数比率

して選択した学生数の比率が約30%と他の選択肢の選択者数比率より高い傾向がある。2年生においては、「先生や友達と過ごす喜び」、「できることは自分ですること」の選択者数比率が34.2%と13の内容の中で最も高い比率を示しており、両質問において同様の傾向が見られる。

11. 「取り上げるのが難しい内容についての質問」について

保育実践の中で取り上げるのが難しく思うものとして選択された内容の学年別選択者数比率を、FIGURE 6 に示す。

FIGURE 6 より、保育実践の中で取り上げるのが難しく思う内容として、1年生においては「思いの伝達、気づき」、「高齢者や地域の人々への親しみ」の選択者数比率が50%以上、「自分で考え行動すること」が40%以上と高くなっている。2年生においては、「高齢者や地域の人々への親しみ」の選択者数比率が50%以上、「自分で考え行動すること」、「思いの伝達、気づき」の比率が40%以上と高くなっている。また、それらの内容のうち、1年生においては、「高齢者や地域の人々への親しみ」、「思いの伝達、気づき」は、FIGURE 3 において自分が知らない、知識が不足している内容として選択した学生数の比率が60%以上、30%以上と他の選択肢の選択者数比率より高い傾向がある。2年生においては、「高齢者や地域の人々への

親しみ」、「思いの伝達、気づき」、「自分で考え行動すること」の選択者数比率が70%以上、40%以上、30%以上と他の選択肢の選択者数比率より高い傾向があり、両質問において類似した傾向が見られる。

12. 領域「人間関係」についてのアンケートの各質問における選択者数比率の高い内容について

領域「人間関係」についてのアンケートの質問2以外の各質問において、選択者数比率の高い上位5つの内容を、TABLE 6 に示す。

TABLE 6 より、両学年の回答結果において、「取り上げやすい内容についての質問」と「取り上げるのが難しい質問」における選択者数比率の高い上位3つの内容が、それぞれ「知識充足を感じる内容についての質問」と「知識不足を感じる内容についての質問」におけるTABLE 6 に挙げられた内容となっており、順位も類似していることが分かる。このことから、自分は知っている、知識が多くあると思う内容については保育実践の中で取り上げやすいと考え、自分は知らない、知識が足りないと思う内容については取り上げるのが難しいと考える傾向があることが窺われる。

13. 選択者数比率の高い内容における質問間の関連について

TABLE 6 に示された、「取り上げやすい内容についての質問」と「取り上げるのが難しい質問」にお

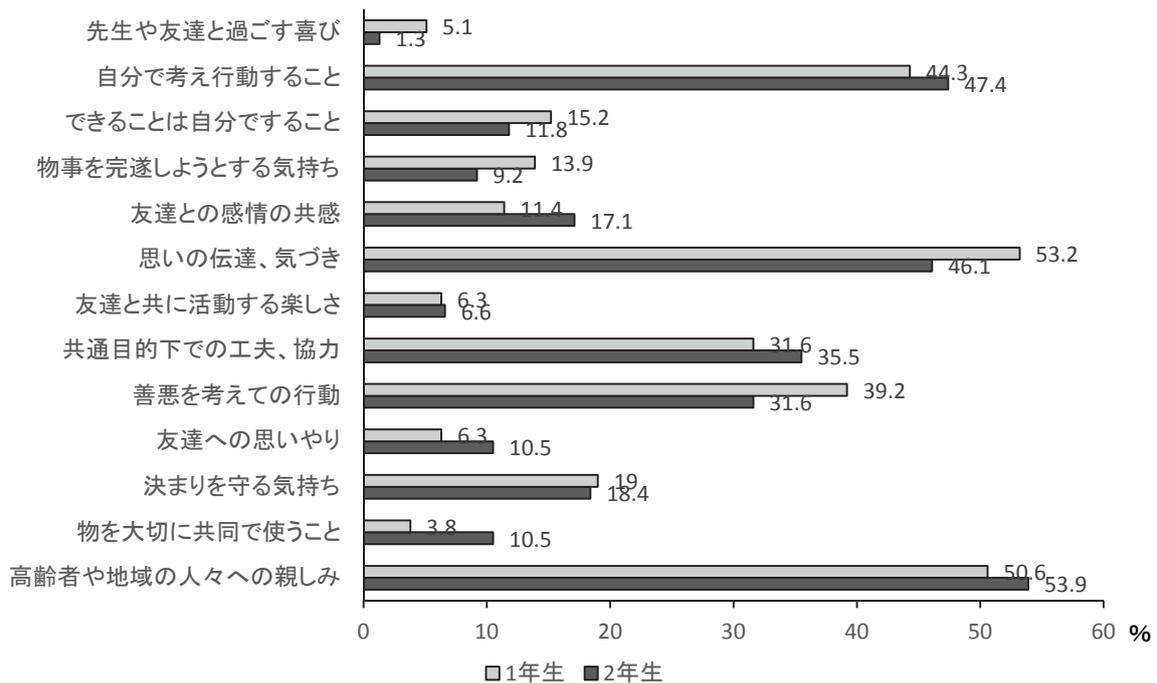


FIGURE 6 「取り上げるのが難しい内容についての質問」における各選択肢の学年別選択者数比率

ける各学年の選択者数比率の高い上位3つの内容について、「取り上げやすい内容についての質問」と「知識充足を感じる内容についての質問」の関連をTABLE 7～12に、「取り上げるのが難しい質問」と「知識不足を感じる内容についての質問」の間の関連を、TABLE 13～18に示す。

TABLE 9 ( $\chi^2(1)=.14$ , n.s.)、TABLE 13 ( $\chi^2(1)=.37$ , n.s.) 以外の、TABLE 7 ( $\chi^2(1)=5.75$ ,  $p < .05$ )、TABLE 8 ( $\chi^2(1)=4.67$ ,  $p < .05$ )、TABLE 10 ( $\chi^2(1)=9.59$ ,  $p < .01$ )、TABLE 11 ( $\chi^2(1)=5.28$ ,  $p < .05$ )、TABLE 12 ( $\chi^2(1)=4.10$ ,  $p < .05$ )、TABLE 14 ( $\chi^2(1)=6.12$ ,  $p < .05$ )、TABLE 15 ( $\chi^2(1)=8.39$ ,  $p < .01$ )、TABLE 16 ( $\chi^2(1)=6.84$ ,  $p < .01$ )、TABLE 17 ( $\chi^2(1)=5.15$ ,  $p < .05$ )、TABLE 18 ( $\chi^2(1)=3.95$ ,  $p < .05$ )において、 $\chi^2$ 検定の結果有意差が見られた。このことから、TABLE 6に示された、「取り上げやすい内容についての質問」と「取り上げるのが難しい質問」における各学年の選択者比率の高い上位3つの内容のうち、1年生における「友達と共に活動する楽しさ」、「思いの伝達、気づき」以外のすべてにおいて、「内容について知識がある」と思った学生が、同じ内容を「保育実践において取り上げやすそうだ」と考える傾向、あるいは「内容について知識が不足している」と思った学生が、同じ内容を「保育実践において取り上げるのが難しそうだ」と考える傾向があることが示された。

なお、TABLE 6において、「取り上げたい内容についての質問」と「知識充足を感じる内容についての質問」には両学年に共通する内容が見られたが、いずれにおいても有意差は見られず、質問間の関連は認められなかった。

#### IV. 討論

本研究における結果を踏まえて考えられることを以下に述べる。

TABLE 1～3より、領域についての内容のイメージおよび他の人への説明の可否、再生できる領域名の数、領域の特性についての理解のいずれにおいても、2年生の方が理解できていることが示された。また、TABLE 4、5より、幼稚園教育において育みたい資質・能力の理解、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の理解においても、同様の傾向が見られた。領域のねらいは、「幼稚園教育において育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えたものであり、内容は、ねらいを達成するために指導する事項」である<sup>7)</sup>。従って、幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解することが、各領域においてなぜこのようなねらいや内容が含まれるのかという理解につながり、領域の内容を学修する意味の理解を促すことが期待できるものとする。また、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、ねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体

TABLE6 領域「人間関係」についてのアンケートの各質問における選択者数比率の高い内容

1年生					
順位	知識充足を感じる内容についての質問	知識不足を感じる内容についての質問	取り上げたい内容についての質問	取り上げやすい内容についての質問	取り上げるのが難しい内容についての質問
1	・友達への思いやり	・高齢者や地域の人々への親しみ	・物事を完遂しようとする気持ち	・先生や友達と過ごす喜び	・思いの伝達、気づき
2	・先生や友達と過ごす喜び ・できることは自分ですること	・思いの伝達、気づき ・共通目的下での工夫、協力	・友達への思いやり	・できることは自分ですること	・高齢者や地域の人々への親しみ
3	-	-	・先生や友達と過ごす喜び ・友達との感情の共感	・友達と共に活動する楽しさ	・自分で考え行動すること
4	・友達と共に活動する楽しさ	・自分で考え行動すること	-	・物事を完遂しようとする気持ち	・善悪を考えての行動
5	・友達との感情の共感	・決まりを守る気持ち	・友達と共に活動する楽しさ	・共通目的下での工夫、協力	・共通目的下での工夫、協力
2年生					
順位	知識充足を感じる内容についての質問	知識不足を感じる内容についての質問	取り上げたい内容についての質問	取り上げやすい内容についての質問	取り上げるのが難しい内容についての質問
1	・先生や友達と過ごす喜び ・できることは自分ですること ・友達と共に活動する楽しさ	・高齢者や地域の人々への親しみ	・物事を完遂しようとする気持ち	・先生や友達と過ごす喜び	・高齢者や地域の人々への親しみ
2	-	・思いの伝達、気づき	・先生や友達と過ごす喜び ・友達への思いやり	・できることは自分ですること	・自分で考え行動すること
3	-	・自分で考え行動すること	-	・友達との感情の共感	・思いの伝達、気づき
4	・友達への思いやり	・共通目的下での工夫、協力	・思いの伝達、気づき ・友達と共に活動する楽しさ	・決まりを守る気持ち	・共通目的下での工夫、協力
5	・友達との感情の共感	・善悪を考えての行動	-	・友達と共に活動する楽しさ	・善悪を考えての行動

TABLE7 「先生や友達と過ごす喜び」における「知識充足を感じる内容についての質問」と「取り上げやすい内容についての質問」の関連（1年生）

「知識充足を感じる内容」 として	選択者数	「取り上げやすい内容」として		合計
		選択者数	非選択者数	
	15	8	23	
%	65.2	34.8	100	
非選択者数	20	36	56	
%	35.7	64.3	100	
合計	人数	35	44	79
	%	44.3	55.7	100

TABLE8 「できることは自分ですること」における「知識充足を感じる内容についての質問」と「取り上げやすい内容についての質問」の関連（1年生）

		「取り上げやすい内容」として		合計
		選択者数	非選択者数	
「知識充足を感じる内容」 として	選択者数	12	11	23
	%	52.2	47.8	100
	非選択者数	15	41	56
	%	26.8	73.2	100
合計	人数	27	52	79
	%	34.2	65.8	100

TABLE9 「友達と共に活動する楽しさ」における「知識充足を感じる内容についての質問」と「取り上げやすい内容についての質問」の関連（1年生）

		「取り上げやすい内容」として		合計
		選択者数	非選択者数	
「知識充足を感じる内容」 として	選択者数	6	16	22
	%	27.3	72.7	100
	非選択者数	18	39	57
	%	31.6	68.4	100
合計	人数	24	55	79
	%	30.4	69.6	100

TABLE10 「先生や友達と過ごす喜び」における「知識充足を感じる内容についての質問」と「取り上げやすい内容についての質問」の関連（2年生）

		「取り上げやすい内容」として		合計
		選択者数	非選択者数	
「知識充足を感じる内容」 として	選択者数	18	8	26
	%	69.2	30.8	100
	非選択者数	16	34	50
	%	32.0	68.0	100
合計	人数	34	42	76
	%	44.7	55.3	100

TABLE11 「できることは自分ですること」における「知識充足を感じる内容についての質問」と「取り上げやすい内容についての質問」の関連（2年生）

		「取り上げやすい内容」として		合計
		選択者数	非選択者数	
「知識充足を感じる内容」 として	選択者数	16	10	26
	%	61.5	38.5	100
	非選択者数	17	33	50
	%	34.0	66.0	100
合計	人数	33	43	76
	%	43.4	56.6	100

TABLE12 「友達との感情の共感」における「知識充足を感じる内容についての質問」と「取り上げやすい内容についての質問」の関連（2年生）

		「取り上げやすい内容」として		合計
		選択者数	非選択者数	
「知識充足を感じる内容」 として	選択者数	10	12	22
	%	45.5	54.5	100
	非選択者数	12	42	54
	%	22.2	77.8	100
合計	人数	22	54	76
	%	28.9	71.1	100

TABLE13 「思いの伝達、気付き」における「知識不足を感じる内容についての質問」と「取り上げるのが難しい内容についての質問」の関連（1年生）

		「取り上げるのが難しい内容」として		合計
		選択者数	非選択者数	
「知識不足を感じる内容」 として	選択者数	14	10	24
	%	58.3	41.7	100
	非選択者数	28	27	55
	%	50.9	49.1	100
合計	人数	42	37	79
	%	53.2	46.8	100

TABLE14 「高齢者や地域の人々への親しみ」における「知識不足を感じる内容についての質問」と「取り上げるのが難しい内容についての質問」の関連（1年生）

		「取り上げるのが難しい内容」として		合計
		選択者数	非選択者数	
「知識不足を感じる内容」 として	選択者数	32	21	53
	%	60.4	39.6	100
	非選択者数	8	18	26
	%	30.8	69.2	100
合計	人数	40	39	79
	%	50.6	49.4	100

TABLE15 「自分で考え行動すること」における「知識不足を感じる内容についての質問」と「取り上げるのが難しい内容についての質問」の関連（1年生）

		「取り上げるのが難しい内容」として		合計
		選択者数	非選択者数	
「知識不足を感じる内容」 として	選択者数	16	7	23
	%	69.6	30.4	100
	非選択者数	19	37	56
	%	33.9	66.1	100
合計	人数	35	44	79
	%	44.3	55.7	100

TABLE16 「高齢者や地域の人々への親しみ」における「知識不足を感じる内容についての質問」と「取り上げるのが難しい内容についての質問」の関連（2年生）

		「取り上げるのが難しい内容」として		合計
		選択者数	非選択者数	
「知識不足を感じる内容」 として	選択者数	37	23	60
	%	61.7	38.3	100
	非選択者数	4	12	16
	%	25.0	75.0	100
合計	人数	41	35	76
	%	53.9	46.1	100

TABLE17 「自分で考え行動すること」における「知識不足を感じる内容についての質問」と「取り上げるのが難しい内容についての質問」の関連（2年生）

		「取り上げるのが難しい内容」として		合計
		選択者数	非選択者数	
「知識不足を感じる内容」 として	選択者数	17	9	26
	%	65.4	34.6	100
	非選択者数	19	31	50
	%	38.0	62.0	100
合計	人数	36	40	76
	%	47.4	52.6	100

TABLE18 「思いの伝達、気付き」における「知識不足を感じる内容についての質問」と「取り上げるのが難しい内容についての質問」の関連（2年生）

		「取り上げるのが難しい内容」として		合計
		選択者数	非選択者数	
「知識不足を感じる内容」 として	選択者数	19	13	32
	%	59.4	40.6	100
	非選択者数	16	28	44
	%	36.4	63.6	100
合計	人数	35	41	76
	%	46.1	53.9	100

的な姿である<sup>7)</sup>。従って、その理解は、領域「人間関係」においては、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の中で、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、社会生活との関わりを幼児の発達理解のための視点として持つことの意識化につながり、それらに関わる領域の内容を学修する意味の理解、学修内容そのものの理解を促すことが期待できるものとする。そして、そのような関連性を考慮すれば、1年次後期の「幼児と人間関係」の授業では、TABLE 1、4、5において領域、幼稚園教育において育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿についてイメージも他の人への説明もできないとする1年生

が10名、21名、26名であるような現状を改善させた上で、領域の学修を進めることは有意味であると思われる。例えば、早期の授業において、前述の三者の意味とつながりについて確認できる機会を設定することは、学生の理解の一助となり得るものと思われる。また、TABLE 1、4、5において、学修を重ねて実習を経験した2年生においても、前述の三者について「他の人に説明できる」とした学生は20%未満である現況を考慮する必要がある。例えば、2年次前期の「保育内容（人間関係）の指導法」においては、具体的な指導場面を想定した保育構想についての学修が主となるが、指導案の作成や保育活動の改善を考慮する際に

三者の観点を意識的に取り入れるような、各回の授業における配慮は有意味であると考えられる。

また、FIGURE 2において、領域「人間関係」の内容についての知識を得た手段として、実習等を選択した2年生が90%以上を占めていたことから、領域の内容を学ぶ手段として実習が有用であることが認められた。1年生は実習を未経験のまま領域の学修を始めること、FIGURE 2において領域「人間関係」の内容から知識があると思うものを「なんとなく選んだ」とする学生が約20%見られたことから、漠然としたイメージを抱いて学修に臨むことが予想される。領域「人間関係」は保育者が可視化できる技術を発揮して保育実践を行うものではないことから、子どもの姿、活動を具体的に考慮しながら理解を進めることが、より求められる。そのため、実習で実際の幼児の姿に触れるまでの授業においては、具体的な子どもの姿を具体的に示す教材使用等の配慮が特に必要になると考えられる。

FIGURE 1、FIGURE 3～6、TABLE 6において、1年生と2年生に、各質問における選択者数比率の高い内容が共通しているの多いという類似した回答傾向が見られた。知識不足を感じる内容についての質問においては、「高齢者や地域の人々への親しみ」、「思いの伝達、気づき」、「自分で考え行動すること」、「共通目的下での工夫、協力」の選択者数比率が、両学年において他の選択肢の選択者数比率より高く、この傾向は、太田<sup>6)</sup>による結果とも一致している。それらの内容は、実習等の短期間で、子どもが身につけたか否かを実際に活動している子どもの姿から読み取ることが比較的難しい内容であり、子どもに身につけさせるための指導、援助にもより多くの時間や経験、保育者としての技量が求められる内容であることから、学内での授業でより重点的に取り上げることの必要性が改めて確認されたといえよう。

更に、TABLE 7、8、TABLE 10～12より、知識充足を感じる内容について実践で取り上げやすそうな内容だと考える傾向のあることが示され、TABLE 14～18より、知識不足を感じる内容について実践で取り上げるのが難しそうな内容だと考える傾向のあることが示された。この傾向も、太田<sup>6)</sup>による結果と一致したものであり、知識のある内容についての実践にはより自信を持って臨めることが窺われる。各領域の保育内容には様々なものが含まれるが、それぞれについての知識や理解を向上させることの大切さが改めて確認されたとともに、現況では学生自身が知識を持っていないとした前述のような内容の理解向上を特に念頭に置きながらの学修内容の吟味が求められよう。

## V. まとめ

幼稚園教諭養成課程の短期大学1年生と2年生を対象とするアンケート調査結果より、領域「人間関係」に関する授業内容について検討した。

領域、幼稚園教育において育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について、1年生では「幼児と人間関係」の早期の授業において、それらの意味とつながりについて確認できる機会を設定することが有意味であると考えられた。具体的な指導場面を想定した保育構想についての学修が主となる2年生においては、指導案の作成や保育活動の改善を考慮する際にそれら三者の観点を各回の授業に意識的に取り入れるような配慮が有意味であると考えられた。

また、実習を未経験のまま「幼児と人間関係」を学修する1年生に対しては、実習で実際の幼児の姿に触れるまでの授業においては、具体的な子どもの姿を具体的に示す教材使用等の配慮が特に必要になると考えられた。

領域「人間関係」の保育内容について、知識充足を感じる内容については実践で取り上げやすそうだと考える傾向のあることが両学年において示された。一方、知識不足を感じる内容については実践で取り上げるのが難しそうだと考える傾向のあることが示された。これらのことから、学生が知識を持つことで、その知識に関連した内容を取り組みやすいものとして捉える傾向があるものと考えられ、学年を問わず幼稚園教諭養成課程において保育内容に関連する知識を学生に持たせることの重要性が改めて認識された。

両学年が「内容について知らない、知識が不足している」、「保育実践において取り上げるのが難しそうだ」とした内容である「高齢者や地域の人々への親しみ」、「思いの伝達、気づき」、「共通目的下での工夫、協力」、「自分で考え行動する」については、授業でより重点的に取り上げることの必要性が改めて示された。

得られた知見を踏まえながら、学生の理解促進に資する授業展開を考慮していきたいと考える。

## 引用文献

- 1) 中央教育審議会：「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」、文部科学省 平成27年12月21日  
[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/01/13/1365896_01.pdf)
- 2) 幼児教育の実践の質向上に関する検討会（第7

- 回)：「幼児教育の現状」， 文部科学省 令和元年11月26日  
[https://www.mext.go.jp/content/1422191\\_07.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1422191_07.pdf)
- 3) 一般社団法人 保育教諭養成課程研究会：「平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究－幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える－」， 2017
- 4) 中川智之、橋本勇人、入江慶太、尾崎公彦、笹川拓也、大江由美、三宅美智子、重松孝治、橋本彩子、岡正寛子、種村暁也：「幼稚園教諭養成課程における「領域に関する専門的事項」に求められる授業内容に関する一考察－保育内容領域「人間関係」及び「環境」のモデルカリキュラムを手がかりとして－」， 川崎医療短期大学紀要 38号， 2018， 63-69
- 5) 近藤千草：「幼稚園教諭養成課程における学生の学修評価と専門職としての学びに対する意識」， 川村学園女子大学教職センター年報 第2号， 2018， 145-155
- 6) 太田裕子：「領域「人間関係」に関する保育内容についての意識調査－保育者養成課程の短大生と保育者を対象として－」， 羽陽学園短期大学紀要 Vol.10, No.4, 2018, 13-23
- 7) 文部科学省：幼稚園教育要領〈平成29年告示〉， フレーベル館 2017